

ひとりひとりの仕事にキッチンと向き合おう

流山市 原田 久美子

**携わる仕事と向き合い、その意義を考えながら関わってきました。
これからも真摯に取り組んでいきます。**

私は約3年間「ジョブサポート流山（地域職業相談室）」で流山市の相談員として働いています。この施設は、ハローワーク松戸と流山市との協力により、求職者の方々へ求人情報の提供および職業相談と紹介を行っております。また、東関東支部が流山市より委託を受けて「ジョブサポート流山」で運営している個別就職支援事業「わかもの就職支援流山」のキャリアカウンセラーとも連携しています。

私の主な仕事は、求職者の方への手続きの案内や検索機の使い方の説明、セミナーの案内等です。ですが時には、なかなか就職が決まらない焦る思いや、職場の人間関係に悩んでいることなどを聴かせていただくことがあります。また、引きこもりや、仕事が続かないお子さんの相談にみえるご家族からお話を伺うことがあります。そんな時は、力にならない申し訳なさを感じながら、ひたすらお話を聴かせていただき、手元にある情報をお伝えしています。どなたでも気軽に、安心して相談できる環境・雰囲気作りも私の大切な

役割のひとつなのです。

もともと看護師である私が、どうしてハローワークや就職支援に関わる仕事に就いたのか。きっかけは「産業カウンセラー」になったことなのですが、まずは私が携わってきた仕事の話から聞いてください。

病棟看護師として数年働いた後、医師の研究助手として就職し、その後はケアマネージャーを始め福祉関連の仕事に就きました。やりがいのある仕事でしたが、体調を崩して退職しました。力量を超えていたのだと思います。約1年の休養後、幸運にも平成20年から約6年間、厚生労働省の研究費により運営された病院外のがん相談室に勤めることができました。

その頃では珍しい街なかにあるがんの相談室は、木の香りが漂う落ち着いた雰囲気でもともと居心地の良い施設でした。相談や情報提供、患者さんやご家族を支えるサポートグループの支援、専門職との連携が業務です。患者さんやご家族のお話をお聴きするうち

に、次第に抱えている悩みの数々を知ることができました。

そのひとつが当時、院内・院外どちらの相談室でも課題となっていた「仕事と治療の両立」です。平成28年12月の厚生労働省「がん患者のおかれている状況と就労支援の現状について」によると、がんの罹患により依願退職・解雇された人が34%に上り、自営では17%が廃業しました（治療開始前の離職は40.2%、治療開始後の離職が48.5%）。これらの割合は2003年と2013年の調査結果を比較してもほとんど変化していません。

患者さんたちは、まず自分の病気をどのように職場に伝えるか、さらに休職期間の予定や復職後の仕事と治療についてどう相談したらよいかを悩んでいました。がんだけでなく、うつ病などのメンタル疾患や脳血管障害などの慢性疾患の方々も同じでしょう。治療後の生活をイメージして計画を立てることは難しいことです。復職した後、誰にも相談できずに無理を重ねる人も少なくありません。治療



開始後の離職が48.5%というのもうなづけ
ます。

例えば、プロ野球の投手が肘の手術をする
場合はどうでしょうか。術後はマッサーや
軽いリハビリから始め、忍耐強く徐々に負荷
をかけていきます。再びマウンドに戻るまで
に理学療法士などの専門職が支えながら、半
年以上時間をかけて準備しますね。同じよう
に復職前後に支えてくれる専門家がいたら、
治療中の患者さんはどんなに心強いでしょ
う。本人に代わって身体や精神の状況、不安
や要望を代弁し、職場の理解を促して、制度
や環境を整えるために職場に働きかけてくれ
るのです。

今、厚生労働省が治療と職業生活の両立支
援のために育成を推進している「両立支援コー
ディネーター」は、まさにそのような役割を
担う専門職です。こうした制度が一日も早く
社会に浸透することを願って止みません。東
関東支部でも昨年末「治療と仕事の両立支援
セミナー」が開催されました。産業カウンセ
ラーとしての私も、いつか何らかの役割を担
えるように、準備していかうと考えています。

さて、がんの相談室は平成26年に閉鎖とな
りました。私の中で働くことや社会とつなが
ることの意味、治療費や生活費、家族との関
係等、様々なことが強く心に刻まれました。
そんなある日、産業カウンセラーである親
友から養成講座の受講を強く勧められたので
す。受講前は続けられるかどうか心配でした

が、なんとか資格を得ることができました。
先生方の教え、授業中の思い出、ともに悩み
励ましあった同期の友だちは今でも私の宝物
です。勧めてくれた親友には心から感謝して
います。その後求職活動を始めた頃、東関東
支部のメール会員宛に送られた募集に応募し
て就くことができたのが今の仕事「ジョブサ
ポート流山・相談員」だったのです。

現在は市の相談員の他に、東関東支部の電
話相談員を月に1回、傾聴ボランティアを2
カ月に1回程度の割合で続けています。

電話相談は原則一期一会。必要な情報提供
はもちろん、「気持ちが悪くても軽くなってい
ただく」こと、「電話して良かったと感じてい
ただく」ことが最大の目的だと思っています。
そのために、相談者の息遣いや声のトーン、
語る言葉に集中し、思いを受け止めて寄り添
うことができるように努力しています。

傾聴ボランティアではリーダーの言葉をい
つも忘れないようにしています。私たちとの
会話から「頑張って生きてきた」と気付いて
いただくことで、ご自身の人生を意味のある、
誇りあるものと感じていただきたいと思います。入所
者の方々の様々な人生を聴かせていただくこ
とは、私自身の人生を振り返ることに繋
がっています。これからの人生を悔いが残ら
ないように、大切に生きようと思わせてくれ
るのです。

電話相談員、傾聴ボランティアのどちら
も、私のカウンセラーとしての引き出しを増

やし、聴く力の向上を助けてくれているよう
に感じています。

こうして振り返ってみると、実に様々なこ
とに手を出し、顔を出してきました。働き
始めた頃は定年まで病棟看護師として全うす
るつもりだったのに、真逆の人生を送ってき
ました。ひとつの仕事が極めることができな
かったという事実は、時として私に劣等感を
抱かせます。でも、「聴く」ことが仕事の中
心だった今までの経験は、カウンセラーとし
ての「強み」にもなり得るのだと、最近では
考えるようにしています。随分遠回りしてこ
こまで来ました。これから両立支援や相談業
務、カウンセリングなどを担っていけるよう
に、今できることに真摯に取り組んでいこう
と思っています。

最後に、ご参考までに、がん患者さんやご
家族のための相談室を紹介させていただきます。

※「がん相談支援センター」

全国のがん診療連携拠点病院にある相談室
です。

[https://hospsdb.ganjocho.jp/kyotendb.nsf/
xpConsultantSearchTop.xsp](https://hospsdb.ganjocho.jp/kyotendb.nsf/xpConsultantSearchTop.xsp)

※「マギーズ東京」

東京・豊洲にある病院から独立した相談室
です。「自分を取り戻せるための空間やサ
ポート」を提供するイギリス・マギーズセ
ンターのコンセプトをもとに2016年に
開所されました。

<https://maggiestokyo.org/service/>